

# 大学出版

The Association of  
Japanese University Presses

No.133  
2023.2  
冬

【特集】「学術書」をデザインする

学術書のデザインを、再発明しよう！ 阿部卓也 1

悪戦苦闘の痕跡が本の佇まいになる 上村和馬 7

書棚はメッセージである 長崎健一／見玉真也 12

「図書館あるある」から考えるデザインのこと 是住久美子 17

【連載】何年経っても忘れられない、編集者の一冊《8》

J・H・ベーカー著／深尾裕造訳

『イギリス法史入門』第4版 第I部〔総論〕・第II部〔名論〕

田中直哉 表2

大学出版部ニュース 22



一般社団法人  
大学出版部協会

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

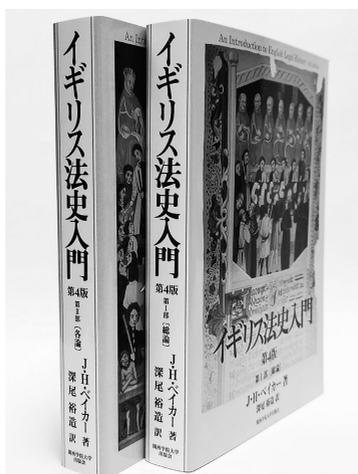
何年経っても忘れられない、編集者の一冊(8)

J・H・ベイカー著／深尾裕造訳

## 『イギリス法史入門』 第4版

第Ⅰ部〔総論〕・第Ⅱ部〔各論〕

田中直哉（関西学院大学出版会）



カバー画には15世紀後半の民訴裁判所と王座裁判所の様子を描いたものを使用。また、Butterworths社はその後、オックスフォード大学出版局に買収され、本書の著作権はO.U.Pより取得した。なお、原著第4版を全面的にアップデートした第5版が2019年に出版された。第5版についても弊会で翻訳権を取得し、現在深尾氏による翻訳が進行中。本年中に第Ⅰ部、来年に第Ⅱ部の出版を予定している。〔関西学院大学出版会 第Ⅰ部〔総論〕2014年/A5並製504頁・定価4950円、第Ⅱ部〔各論〕2014年/A5並製592頁・定価6380円〕

本書は、ジョン・ハミルトン・ベイカー教授著 *An Introduction to English Legal History, Fourth Edition* (2002, Butterworths Lexis Nexis) の翻訳である。一九七一年、ベイカー教授が二八歳で出版した初版は、早くも七五年に小山貞夫氏によって『イングランド法制史概説』（創文社）として翻訳され、その後のイングランド法制史研究の礎となった。

二〇〇三年、ベイカー教授は長年に亘るイングランド法史研究への貢献によって騎士に叙任され、サー・ジョン・ベイカー教授となった。原著の改版にもかかわらず新たな訳書が出版されなかったのは、あまりにも初版の訳者が偉大すぎたからだと推察しつつ、研究者なら原著を読めば良いのだが、やはり近づきやすいものにする必要があると訳者の深尾裕造氏は考えていた。そして二〇一〇年から一年のケンブリッジ大学での在外研究において、訳者がベイカー教授から直接学ぶ機会を得たことが契機となり、自ら第4版の翻訳を試みる決意をされた。天命のようなものを感じながら、毎週一章ずつ翻訳し、ベイカー教授の研究室に出かけて疑問点をぶつけるという形で荒訳を完成させた。

訳者が帰国してから訳語の選定と統一を経て、いよいよ編集作業に入った。学生が買いやすい値段にするため、ソフトカバーで分冊とし、五千円以内に収める方針で、第一部を「総論」、第二部を「各論・所有権法史 契約法史 不法行為史 身分法・家族法史 刑事法史」として内容が分かりやすい表題を附した。また、原著の頁数を本文枠外に示して対照しやすいう工夫をした。「各論」の発行部数は少なめに設定したが、結果的に品切れとなり、待ち望まれた翻訳であったことが明らかとなった。

訳書は合わせて一一〇頁にも及ぶ。あらためて訳者の意志の強さと、膨大な研究努力に頭が下がる思いをしつつ、編集者としてこういった名著の翻訳出版に関わる機会を得たことを感謝している。

特集\* 「芸術書」をデザインする

## 芸術書のデザインを、再発明しよう！

阿部卓也

(愛知淑徳大学准教授、メディア論/デザイナー)

### 読者に知を届けるための、全ての工夫

芸術書のデザイン、あるいはより広く、ブックデザインとは何か。根本的に言えば、本の内容（≡知識）が、デザインに先立ってあらかじめ存在すると考えることはできない。本の価値や意味はどこに宿るのかと問うた時、内容と形式の区別は一般に思われているほど自明ではないから。あらゆる知識は、実現するために何らかの具体的「私たち」の次元を必要とする。そしてデザインとは、そうした「私たち」を決定する技能の総称である。芸術書というメディアを選択すること自体が、すでにデザインの判断の一種であり、その意味ではデザイン性のない芸術書は存在しない。……デザイナーとしては、そう主張したいところだが、この話に深入りすると、議論がやや観念的になりすぎてしまう。そこで今回はもう少し実際問題的に、ブックデザイン

を「芸術書を、より広く新しい読み手に届けるための、さまざまな工夫や仕組みづくり」のことだと考えてみよう。つまり、現に存在している芸術書という媒体と、その生産や流通を担ってきた人や制度や組織に、守るべき文化的価値があるという前提から出発する。その上で、社会的認知や役割をアップデートし、芸術書と読者との間に新たな出合いの形態を創出するために、いま何ができるのかを考えたい。筆者はいち研究者/大学教員として、優れた編集者が芸術文化にとってどれほど重要な存在であるかを、日頃から痛感している。同時にデザイナーとしても芸術書のデザインに関わることが多く、この『大学出版』でも第九号から一二五号まで七年弱、表紙デザインを担当した。本稿ではそうした筆者の立場から、芸術書とデザインの関係を歴史的に素描しつつ、いくつかの論点提示を試みたい。

## 装丁と造本…ブックデザインの二つの伝統領域

伝統的に言うところ、本作りの現場でブックデザインと言われてきた活動は、装幀と造本の二種類に大別できる。装幀とは、表紙やカバーなど、主に本文組版以外の（本の外見に関わる）要素のグラフィックデザインのこと、性質的にはパッケージデザインに近い。所属するジャンルとそこからの逸脱の度合いを可視化し、物流と配架の指標として適切に機能した上で、読者の目を惹くことが、その基本使命である。ただし本は一般的な製品よりも価値の損耗や廃棄までのサイクルが長いことが期待され、（幸福なケースに限られるが）時には誰かの人生の傍らで長く時を歩むので、装幀もまた、単なる消費物のパッケージ性以上に、そのような時間性を踏まえた佇まいが大切なこともある。

いっぽう造本とは、本文ページの設計を含めて、本の姿全体をデザインすることである。したがって造本は、いわゆる「組版」と表裏一体のデザイン活動になる（特にパソコンで組版ができるDTPの普及以降は、担い手のレベルで両者の線引きが曖昧になった）。ただし本の内容と無関係に、すでに存在する汎用的なフォーマットに流し込むだけに近い組版の作業は、デザイン的であるとは考えられないことが多い（その汎用的なフォーマットを練り上げること自体は、優れたデザイン行為だが）。普通は、本の内容を踏まえて、その内容と不可分な固有の設計をすることが優れた造本だ

と考えられている。その意味では、定型から逸脱する部分こそが、本のデザイン性だと見なされていることになる。

### （かつての）デザインの学術書

かつては、学術書とデザインが緊密に連携し、その成果が少なくとも社会の一部層から大きな注目を集めるような事例も、一定数存在した。編集者と組版業者の聖域だった学術書の本文組版が、デザイナーという異物と接触し、その化学反応から注目すべき成果が活発に生まれたのは、大筋で一九七〇年代以降の現象だ。例えば中野幹隆編集の現代思想誌『エピステマー』（朝日出版社）の中で、ブックデザイナーの杉浦康平が手がけた仕事（第一期一九七五—七九年、第二期一九八四—八六年）のように、独立性の強い編集者／出版社と文字デザインに強いデザイナーが、ある種の芸術的感性を媒介にして結びつき、半ば採算度外視で実践した先鋭的なデザインが、学問分野（この場合はポストモダン思想）の社会的イメージの形成や流行そのものにさえ影響を与えた、と考えられるケースもある。

『エピステマー』は学術単行本ではなく雑誌と言うべきかもしれないが（定期刊行物として作られた。ただしコード上は書籍扱い）、ともかく第二期0号や1号では、見出しを手動写植、本文を電算写植で組み、見開き単位で書体やフォーマットを変化させつつ、斜め組み、斜め貼り、斜体、意図的なノイズの混入などを多用するという、当時の技術

の限界を追求したデザインが行われている（写植機メーカーの印字部門の協力が背景にある）。伝統的な本の形態を踏襲しつつも、当時の最新テクノロジーを用いて、あらゆる自明性を疑い再構成するという造本上のコンセプトが、従来の哲学や文字中心主義を脱構築しようとしたポストモダンの思想と対応し、行為遂行的な美しさを獲得していたブックデザインと言える。

### 大学出版部系学術書のデザイン

いっぽう、いわゆる大学出版部系の学術出版に関して言えば、装幀という意味にせよ造本という意味にせよ、総論では、デザイン性が重視されてきたとは、あまり言えないだろう。その理由はいくつか考えられる。まずこれらの出版社の最大の使命は、研究者が執筆した書籍原稿の出版（学術業績の形成）を支援することである。そのような本は、基本的に最初から何らかの学問分野に属するので、その分野立てに応じて、本の配架分類も定まり、組版スタイルも

大筋で決まっていることが多い（つまり、デザインを通して自らの言説のポジションを表明する必要性が薄い）。また通常の書籍以上に長く細く売られることが多いので、陳腐化のリスクを避けるため、装幀に奇をてらったモード的なアプローチをすることも避けられる傾向がある。

さらに、予算条件に由来する制約や、作者のインセンティブの問題もある。出版社によって実情は異なるので、以下はあくまで筆者の仕事経験からの推測だが、おそらく、研究者から持ち込まれる企画の半数近くが、何らかの出版助成金を前提にした（そうでなければ採算的に刊行不可能な）書籍ではないだろうか。編集者が立案する自発的な企画も含めると事情は変わるだろうが、持ち込み企画の対応だけでリソースが手一杯、という編集部も多いはずだ。そして、そうした本の多くは（助成金で最低限の赤字回避が保証されてはいても）増刷には至らず、それ以上の収益を上げない。一般売りが伸びる本の割合は、理系と文系で異なるだろうが（学術論文中心の業績評価文化を持つ理系では、しばしば書

### ● 日本初の本格的全集、ついに刊行

# ス。ピノザ全集

刊行  
開始

【編集】上野修・鈴木泉

全6巻  
別巻1

### 第1回

## 第Ⅲ巻 エチカ

翻訳・解説  
上野修

AS判・定価5080円

主著「エチカ」のヴァチカン写本発見、フランスでの新全集の刊行など、世界の最新の研究成果を踏まえ、それらとの照合を経た最良のテキストを読みやすい新訳で提供する。本邦初訳「ヘブライ語文法綱要」も収録  
〈内容案内進呈〉



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋

<http://www.iwanami.co.jp/>

籍を一般読者向けの意図で作るが、書籍を主たる研究成果にする文系では、最新の成果を組み込んだコアで専門的な本を刊行したいニーズも高い」ともかく増刷されるのは全体の割合程度ではないだろうか。一冊の学術書の出版総経費のうち、用紙、印刷、製本などモノ的な実費の割合はかなり高い。そしてギリギリで価格設定されている以上、増刷しても多額の利益が出るわけではない。増刷は社会の要請に應えるため、という要素が強いのも実情だろう。

加えて、著者買取や教科書指定という販路も、昨今は低調傾向のようだ。公的な研究費で自著を購入することは、コンプライアンスの観点から制約されることがしばしばあるし、教員が著作を大学の講義教科書に指定し、入手を強制することは、現在の学生には理不尽な行為に見える。さらに、書籍を刊行する理由が、期限付き研究成果の物証化などであるケースでは、著者の側に広範な読者を獲得しようとする意欲自体が希薄なこともあるかも知れない。

限られた予算と制作進行の中、組版は過去の例をベースにしたオーソドックスなものとし、装幀は校正が最終段階まで進んでから、少ない納期と費用で、出版社馴染みのデザイナーに慌ただしく発注するようなケースが多いはずだ。そこには、部外者が無責任に想像する以上の困難があるはずで、余裕をもって根本的なデザインの議論を立ち上げるのは容易ではないだろう。けれども、その先に徐々に学術書というメディアや、それを支える専門職域の先細り・頭

打ちが見込まれるならば、それは文化全体にとって決して望ましくなく、何らか新しい風を運ぶようなデザインが必要ではないかという思いに、やはり至るのである。

## デジタルと学術書

もちろん、ここで言う「デザイン」とは、「エビステーマー」など「過去の記念碑的ブックデザイン」を表面的に模倣し、過激な見た目づくりに凝ってみる、という意味ではまったくない。一九八四年のデザインを反復しても、当時に匹敵する社会的効果を達成することは不可能だ。現在の新しいメディア条件を受け止め、その中でどのようなデザインをするか、ということこそが問いである。

例えば、電子書籍やネット販売との関係をどう考えるかという問題は、当然ながらある。現在の大学出版部では、電子書籍版の展開率は総じて高くなく（対応コストに見合う利益を出すのが難しいからだろう）、またAmazonなどのネット通販と、従来の取次経由や直注文との比率も、出版社ごとの差異が大きい。だがいづれにせよ、こうしたデジタルな流通環境の存在は、「本のデザイン」に大きな影響を与える。

かつての「斬新な」造本デザインは、基本的に紙の書籍における書体、資材、組版などの固定性・確定性を前提に実現していた。だが、そのように物質的レベルでユニークなグラフィックを作るアプローチは、マルチデバイス、文

字サイズ変更、リフローなど、電子書籍の長所（かたちの変更可能性）とは、相性が悪い。

またブックカバーの装幀などを通じた、本と人との出会いの創出に関しても、オンサイトな（物理的な書架を前提にした）場合と、サーチエンジンやSNS、通販サイトなどの場合では、大きく事情が変わる。紙資材へのこだわりがほとんど無意味になる場合もあれば、テキストデータによるメタ情報のつけ方が発見可能性に大きく寄与したり、書影もサムネイルサイズでの見栄えが重要になるなど、広義での装幀デザインを構成する要素も、変化していく。

そしてこの議論の先には、学術書の形態そのものの変容可能性をどう考えるか、という問題がある。従来の学術単行本の大きな特徴の一つは、（短い論文と違って）全体で完結した一個の世界観を提示する、堅牢な構築物を目指している点だ。入門者の読者は、そうした一冊の本の構築性を通じて、あるテーマへの大きな見取り図を得ることができる。それは、学術書の極めて大切な機能だった。そして実は、これが紙の本の確定性や物質性と、深く関わっていた。章に沿ってストーリーを追いかけ、作者の思考過程を追体験する上では、指先でページに触れ、読み進めた量と残りのページ数を常と感じ続けるといった身体性の次元が、かなり重要な役割を担っていたはずだからである。

いっぽうで、ある程度テーマに習熟した読者（例えば研究分野の同業者）が、引用のために該当箇所を拾い読みし

ているような場合は、それとはかなり異なる読み方になる。特定のキーワードで書籍全体を素早くスキャンし、パラグラフや節程度の単位に宿るミニマムな知識を確認したい読者にとっては、電子媒体による検索の利便性は大きい。このように単純化した二極の「読み方」を考えてみるだけでも、学術知識のまとまりをどのような形で編む（デザインする）べきかは、近未来的に大きな課題である。学術成果に従来の意味でのリニアな全体構造は必要なのか等の議論に、この先必ずなっていく（すでになっている）からだ。

### 新しい「学術書のデザイン」とは

議論は尽きないものの、ひとまず従来の学術書の形態を根本否定せず「より多くの読み手に届けるための工夫をしよう」という限定した議論の範囲でさえ、新しいデザインの発想は必要なはずだ。しかもそれは、従来のブックデザインという言葉からはかなり拡張された、プロセスデザイン的なものとして意識されるべきだろう。

例えば、ライブ的なイベント（大学の講義を含む）や、それをコンテンツ化したもの（映像資料等）と、学術書の「媒体変換」は、人工知能などの支援を受けて、どの程度のコストダウンが可能だろうか？ 講義から学術書が作られるだけでなく、学術書の中からマイクロなピックを自動抽出し、教材的な解説アニメ動画に展開する作業の下拵えなどは、どこまで高品質に自動化できるだろうか？

音楽の新譜が、サブスクリプションとアナログレコードという振り切った二形態でリリースされるように、美的独創性は割り切ったリーズナブルな電子書籍と、物質性や固定性を考え抜き、モノとしての魅力に溢れたプレミアムな体験を提供するリアルな紙の書籍を同時展開し、相乗効果を生み出すことは、コスト的に可能だろうか？ 投げ銭やクラウドファンディングのように、書籍の生成過程を筆者と読者サークルが共有し、触発し合うようなことは？

……これらは、思いつきの例に過ぎないが、いずれにせよ作者は本を書いて終わりではなく、出版社や編集者と手を携え、届け方のデザインに知恵を絞ることまでが執筆活動だという意識を持つべきだと感じる。同様に編集者も時には裏方でなく演者として前に出て、作者には発想できないアプローチでプロモーションをしたり、ある本を別のコンテンツと接続して活性化させるような、新しい身振りか求められるかも知れない（その意味では、広義での「営業」機能の一部と、相互浸透的になっていく可能性もある）。

### 読まれることの力を信じて

このように書くのと、そうしたサービスマスや実践例はWebやSNSにいくらでも存在するのではないか、わざわざ自分でやらなくても、価値ある情報なら市場原理で誰かがやるはずだ、という意見も出るだろう（昨今では、娯楽分野だけでなく学問的な知識も、平明に解説したまとめ動画などが人気だ）。

それは一面では事実だ。しかしここでのポイントは、学術書が、本来もともと多くの人々にアピールする潜在力を持った知識の宝の山であるにも関わらず、じゅうぶんには世間から発見されておらず、前述したような実践の回路になかなか入っていかない現状がある、ということだ。だからこそ作り手が、発信や新しい読みを支援するアクションを、主体的に担うべきだと考えるのである。

もちろん学術書の自分は、確かでありながら内容を作り出すことにこそある。デザイン性やデリバリースキルに関心を向けるあまり、肝心の中身を疎かにしたら、それこそ自殺行為だ。しかしいま、筆者の知る若者の多くは、ネットで信頼に足る情報や知識形成のモデルを得ることができず、疲弊してもいる。彼らはSEO（検索ランキング最適化）やアフィリエイト稼ぎに特化した、既に語られたことの継ぎはぎによるジャンク情報の海で、途方に暮れている。そこに、学術書のプロフェッショナルたちが果たしうる、重要な役割があるはずである。

一般層や専門外の読者は、必ずしも学術書の一義的なターゲットではないだろう。だが想定された読者を超えて、時に一種のアクシデントのように、思いもかけない人に読まれ、触発する可能性こそが、本というメディアの本質でもある。そうした「読みの輪」のエネルギーマスは、必ず巡り巡って作り手にも返ってくるはずだ。読まれる、ということが持っている根源的な価値や力を、今一度信じてたい。

特集\*「学術書」をデザインする

## 悪戦苦闘の痕跡が本の佇まいになる

上村和馬 (慶應義塾大学出版会)

### 装幀は本の売上に貢献するのか

装幀は本の売上に貢献する。否、装幀は本の売上にまったく係わりがない。そんな議論を一度は耳にするが、僕は前者に与する。学術書であれ、文藝書であれ、社会科学書であれ、装幀が本の売上にまったく係わりがないとは考えにくい。

書店店頭に立つと、雄弁でなくとも、熱量のある佇まいを纏う本が必ずある。書き手や編集者や装幀家の熱量がそこはかとなく感じられる本に思わず手を伸ばすことはある。書名や帯の惹句とともに熱を発する装幀の本に自ずと誘導される。面白そう！とか、ただならぬ気配！とか、直感的に思ってもらうこと。そんな意匠を纏わせるのが、編集者と装幀家の仕事だと思う。装幀に熱量を感じない本は、編集者の配慮が隅々まで行き届いているのか、内容について

て著者と侃侃諤諤やりあったのか、心配になりさえする。編集者は一冊の書物の内容に責任を持つ。同時に、物としての書物の意匠にも責任を持つ。その責任の範疇は、装幀から本文レイアウト、資料の選定まで多岐に及ぶ。

だが、編集者も十人十色。編集者が代われば、その本の意匠もまったく変わるはずだ。巷に溢れる様々な本の意匠は、編集者がある原稿にどう向き合ったのかを表すものでもある。書き手が著した原稿の熱量が高ければ高いほど、編集者はその原稿に相応しい意匠をどう施すか頭を悩ませるに違いない。

編集者は著者に次いで、その本の内容を熟知している。著者と読者のあいだに立ち、その本を対象読者に確実に届けるための策を練る。対象読者が本を手に取り、読んでくれるような意匠とは何かをよくよく考えなければならぬ。本の内容に相応しい意匠。読者の購買につながる意匠。

そのためには、名と体の輪郭が顕れてくるまで、原稿を深く読み込む必要がある。

まずは名だ。名は体を表す。名と実は相応じるものである。原稿を深く読み込み、その本質を端的に表す名を与える。つまり、書名を与える。書名は、装幀の最も重要な構成要素だ。寿限無寿限無のような実を伴わない、ただ長いだけの名前を与えてはならない。帯や袖の惹句も然り。欧米の書物とは異なり、日本の書物では惹句も装幀の立派な構成要素だ。特に学術書では、書名や惹句などのタイポグラフィが重要になる。

ここでいう体とは意匠そのものことだが、一冊一冊の原稿を丁寧に深く読み込み、頭を悩ませていると、その内容に相応しい意匠がぼんやりと浮かび、やがてはつきりと輪郭を描き始める。

### 原稿から浮かび上がる本の輪郭

たとえば、中森弘樹『失踪の社会学』。失踪とは何か。



モノクロなのでわかりにくいですが、帯が黄色、表紙が青でウクライナ国旗色となっている。

その不条理さや不可解さ、やりきれなさは、何に由来するのかを問うた若手社会学者の専門書だが、原稿を読み込んでいくうちに、湖面をたゆたう女性の姿が臙気に浮かんできた。失踪者を惹起させたのだと思うが、すぐにそのイメージに合う写真をフォトバンクで探し、写真の扱いを得意とするデザイナーの耳塚有里さんに装幀をお願いした。

タナハシ・コーツ『僕の大統領は黒人だった』。アフリカ系アメリカ人が辿った過酷な歴史を踏まえながら、アメリカ初の黒人大統領バラク・オバマと黒人社会が歩んだ八年の軌跡を丁寧に辿る翻訳書だ。原題は *We Were Eight Years in Power* (「われわれは八年間政権の座にあった」) の意。だが、原稿を読み込むと「My」「僕」の「大統領」という著者コーツがオバマに抱く愛憎相半ばする感覚が強烈に感じられたため、第八章の章題をそのまま書名に採用し、やはり耳塚さんにタイポグラフィを強調していただいた。マーシ・シヨア『ウクライナの夜』は、ウクライナとEUとの連合協定への署名を拒んだヤヌコーヴィチ政権を倒

したマイダン革命から、ロシアによるクリミア併合、その後のロシアを後ろ盾とする反政府の分離主義武装勢力とウクライナ政府軍とのドンバス紛争へと続く事態を、大文字の歴史に、多様なウクライナ社会の証言者たちの声を織り交ぜながら立体的に描き出す『生の声』によるウクライナ現代史である。臨場感溢れる筆致と現在進行中の事態を念頭に写真を選定し、こちらも耳塚さんに大きくあしらっていただいた。

佐藤文香『女性兵士という難問』。この本は、ジェンダーの視点から戦争や軍隊、特に自衛隊や米軍を批判的に考察するもので、学術専門書というよりは教養・啓蒙書に近い。学生の方にも手に取っていただけるように、四六判で、価格もできるかぎり安価に設定した。女性の著者によるフェミニズムの本なので、やわらかい印象にしたいと考え、イラストを得意とするデザインナーの中尾悠さんに装幀込みでお願ひし、女性兵士を描いていた。

教科書は、どうするか。たとえば、岩本通弥ほか編『民

俗学の思考法』。民俗学というと古めかしいイメージもあるが、本書ではSNSも科学技術もグローバルゼーションだつて扱うという新機軸を打ち出している。教科書なので、束幅を薄く、質量は軽く、本体一八〇〇円、四六判・並製・横組みの設計。やはり中尾さんに装幀をお願ひし、民俗学のモチーフをイラスト化して、民俗学の古めかしいイメージを刷新する鮮やかなオレンジに深い青というポップなデザインにしていた。

シリーズ「世界を読み解く一冊の本」。シリーズは大変悩ましい。世界の真理を収めるような器としての書物を多数生み出し、時代や文化の違いを超えて脈々と読み継いできた、われわれ人類。われわれが営々と読み継いできた書物の世界に耽溺して、一冊一冊を深く読み、味わい尽くす、そんなシリーズを造りたい。装幀は、タイポグラフィや文字を軸にしたデザインワークを得意とする岡部正裕さんにお願ひした。

岡部さんには、上述したようなコンセプトを伝え、書店







特集\* 「学術書」をデザインする【インタビュー】

## 書棚はメッセージである

長崎健一／児玉真也（長崎書店）

### 【解説】

一八八九（明治二二）年に熊本市・上通に開業した長崎書店。熊本の代表的な老舗書店として長く市民に愛されてきた。商店街の中央に位置する本店はモダンな内外観にリニユアールし、展示会やトークイベント、ミニライブなどを催す一方、その前身とも言える「長崎次郎書店」の歴史ある大正建築の保存に力を尽くすなど、新旧両面併せ持つ、ユニークな書店である。

百年以上の歴史において、地域文化の発展のために同店では人文書にも力を入れてきた。経営難のなかで売れ筋とは言いがたい人文書の棚を減らす地方書店が増える一方で、文化の担い手である同店は来店者への「メッセージ」として、店内の「良地」の壁面六本の棚を人文書のために確保し、日々、棚づくりを模索している。人文書担当の児玉氏は、歴史ある書店であるからこそ、棚づくりの際には「老舗らしさ」「重厚さ」を意識するという。

今号のテーマ「学術書」をデザインする」は、ブックデザインのみをデザインとはとらえず、より広く読者に届けるまでの「見せ方」をデザインとして考える。そこで造本・装丁と同じくらいに重要になるのが、書店や図書館での「書棚のデザイン」だ。「手に取りたくなるようなデザイン」の本も、その姿が見えなければ意味がない。読者の手に届けてくれる書棚のデザインとはどのようなものだろうか？……百年の経験が蓄積した老舗書店から、その知恵を学ぶ。

（聞き手・構成 京都大学学術出版会・大橋裕和）

### 「質」をまもる

学術書、といっても書店によって扱いは様々ですが、長崎書店での棚づくりはいかがでしょうか？

長崎 店舗入り口近くの壁面に人文書や芸術書が地続きになつた棚六本があります。大きな書店と比べると棚本数こそ少ないですが、六〇坪という店舗面積を考えると、相対的に人文書の割合は多いと思います。在庫全体からすると

# 知泉書館

## 「自由」の思想史

その人間学的な考察

金子晴勇 「自由」のために個性的人格主義と新たな共同体の構想を展開する。現代人必読の書 四六/320p/3000円

## デカルト『方法序説』注解

(知泉学術叢書 21)

ポワソン／山田弘明・フォベルグ・今井悠介訳 デカルトと同時代人によって書かれた最初のデカルト哲学の総合的研究書 新書/310p/3600円

## ヘーゲル全集 第2巻

初期論稿Ⅱ

責任編集：山口誠一 宗教、政治、文学、歴史、幾何学など多分野の原稿を収録。本邦初訳の論稿群 菊/720p/10000円

## 21世紀の「古い」の思想

人生100年時代の世代責任  
森下直貴 50代以降を四つに区分し古いの思想の具体的構想を展開。豊かな高齢社会を構築 四六/222p/2500円

## 旅するナラティヴ

西洋中世をめぐる移動の諸相  
大沼由布・徳永聡子編 多様なジャンルの語りを移動の視点で編く中世英文学の独創的共同論集 菊/302p/4500円

## 中央銀行論

セントラル・バンキングの本質を求めて  
小栗誠治 文献や資料を駆使して中央銀行の歴史と現状を考察、実態と課題を総合的に展開する 菊/400p/5300円

東京都文京区本郷 1-13-2 (税別)  
TEL03-3814-6161 FAX03-3814-6166  
<http://www.chisen.co.jp>

五、六%の分量ではありませんが、町の本屋としての人文書の割合は高い。敷居の高そうな本であっても見てもらいたいという思いで、店舗内でもいい場所に配置しています。担当の児玉が版元の最新情報などを見て厳選して仕入れていて、質量ともかなり力の入れようは違うのではないかと自負しています。

大きなお店でも小さなお店でも、店内における優位性が高い売場つてありますよね。視認されやすいとか、お客さまが行きやすいとか。そのうちのひとつに六本の棚を充てているわけですが、それはお店としての「メッセージ」なんです。もちろん雑誌とかコミックも大事に扱っていますけど、「こんな本も出ているんですよ」というメッセージとしてレイアウトは考えているつもりです。

——書籍を制作する側としてはすごくうれしいことですが、なぜそのようなメッセージを出そうと？

長崎 いろいろ理由はありますが、一つはお店のファンづくりのために大事にしたいジャンルなんです。人気のコミックとか文庫のような売れ方はしませんが、このお店に来たら読み応えのある内容のよいものがある、そういう期待を持ってもらえる本屋でありたい。それが長期的には自店の固定客につながることで、ほかの書店さんとの共存にもつながっていくのではないかと考えています。

それに古くから商売をしていますので、規模は大きくなくとも質としてしっかりした書店でありたいという意地みみたいなものがあるかもしれません。町の本屋の親しみやすさに加えて、本の世界の深みを感じていただけるお店にしたいと頑張っているところです。

## メッセージとしての重厚感

児玉 壁面棚をもう少し詳しく言うと、左から芸術書二本、理工書一本、人文書三本と並んでおり、スペースは限られています。幅広い品揃えを心掛けています。これまでの

売上傾向も参照しながら、専門性の高いいわゆる「硬そう」な本でも、いろんな人たちの関心や好奇心につながりそうだと思うものは並べていきます。そういった本は概して内容も造本も重厚感をまとった本が多く、書棚全体の印象も重くしていきますが、あえて、ある程度その雰囲気維持することを意識しながら棚づくりをしています。

もう廃業してしまいましたでしたがフアンの多かった京都の「三月書房」さんとか、パリの名店「シェイクスピア&カンパニー」のように、床から天井付近までぎっしりと本が詰まっている書棚、それも長年をかけて醸成されたであろう知の歴史、知の層そのものであるかのように、どこか圧倒的なそびえ方をしながらも、楽しさも感じさせるような書棚は、ひとつの理想です。

当店もまた、漱石など熊本にゆかりある文豪らとも接点があったはずの、明治時代以来の長い歴史を持っており、その歴史の先端のところで棚づくりに関わらせてもらっていることも常に意識して緊張感を持つようになっています。お客さまに、新しい本を発見する喜びや楽しさとともに、老舗らしさも感じていただけるよう、一冊一冊をできるだけ様々な角度から吟味して並べるように心がけています。

——デザインのどこに注目されますか。

長崎 例えば、医学書院の『シリーズ ケアをひらく』。

あのシリーズは変わっていて面白いですね。専門的な医学的知識を一般の方に広めるための努力、工夫をしている。その一環としてデザインにも親しみやすいポップさがありつつ、軽すぎない。医学書院がそういった装丁で本を出すということは、かなり新鮮に感じられました。自身とデザインの融和をかなり意識されていると思います。当店のお客さまにも結構ファンがいらっちゃって、ロングセラーのタイトルもあります。

児玉 発売前の新刊情報には書影が含まれていないことがほとんどで、それは普段不満に思っていることのひとつです。内容が「うちにはハードすぎる」と感じて注文数を絞ったり見送った本が、いざ発売されてみると思いもよらぬデザイン性があったりして……かっこよかったり、ネット上の画像でもわかる紙質へのこだわりが感じられたり……、一転して、後追いで平積み分の注文をすることも少なからずあります。手に取りたくなる上に、実売につながる可能性も格段に上がる、と思われる。それくらい本のデザインは大事な要素ではありますね。

長崎 そういうことも含めて考え続けていないと、「一朝一夕」の書棚で学術書って売れるものじゃないと思うんです。厳選して本を仕入れ、お客さまの反応を見て、それをまた次に活かして……それを繰り返し返せば棚を介したお客さ

まとのコミュニケーションになる。「こうすればうまくいく」という単純なものではないと思います。どんなものをお客さまが買ってくださいだったのかが次の仕入につながります。

### 背表紙から醸し出せるもの

児玉 平積みを重視する一方で、先ほどまでの話と矛盾するようですが、棚の中の面陳は今はい意図的に減らしています。これに関してはデータに基づく確証があるわけではないんですけど……。より目立ちそうな面陳と、埋もれそうな棚差し。不思議なことに売れ行きにあまり違いがないか、なんなら棚差しにしてからのほうが売れることもしばしばです。お客さまは棚をよく見てくださっているな、と思います。背表紙には、「表紙」ほどのインパクトが期待できないというのはこちらの思い込みで、同じくらいお客さまに呼びかけるところがあるのではないかと思わずにはいられません。

## ハッピークラシー

「幸せ」願望に支配される日常  
カバナス／イルーズ 新自由主義経済を支える幸せ概念。ポジティブ心理学の弊害に心理学と社会学が迫る。高里ひろ訳 ¥3740

## 異種移植

医療は種の境界を超えられるか  
山内一也 動物の臓器は人に移植可能か。拒絶反応や未知の感染症リスクとその対策、患者と動物の福祉を展望する。¥3300

## 専門家の政治予測

どれだけ当たるか？  
どうしたら当てられるか？  
テトロック 国家間紛争から経済成長まで、当てられる専門家の特質を科学する。名著ついに邦訳刊行。桃井・吉田訳 ¥5500

## アレントと革命の哲学

『革命論』を読む  
森一郎 革命のあり方、始まりや約束、評議会制、憲法をめぐる考察まで、『革命論』訳者による詳細なテキスト読解。¥4400

## デジタル時代の アーカイブ系譜学

定義の変遷から、保存と活用の現状、博物館・図書館・文書館を貫く効用と課題、著作権問題など11論考。加藤・宮本編 ¥4620

## 蛇と梯子

イギリスの社会的流動性神話  
トッド 7世代の証言からメリトクラシー社会の実相を探る。エゴドキュメントで読みとく英国現代史。近藤康裕訳 ¥6600

## トウキョウデイズとホップズ

真のリアリズムを求めて  
戦争の悲惨を凝視する歴史家の著を根底まで読み抜いた平和主義者。先入見を鮮かに覆す最新最良6論文。木庭 顕編訳 ¥7150

東京文京本郷  
2丁目20-7  
tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税込)  
www.ms2.co.jp

みすず書房

——我々のイメージと違いますね。それは人文書の棚だけの傾向ですか？

児玉 そうですね。芸術書中心に版型が大きいものを面陳で置いているコーナーもあるし、平積み中心なところもあって、そっちはそっちの動き方がある。そういう面では人文書の棚の特徴なのだと思います。差しが多いので、自然と重厚さも表れてきて、だんだん「書齋」の雰囲気が出てきます。

その棚のレイアウトやデザインによって、お客さまのチャレンジを促せられればいいなと思うんです。この棚の本に手を伸ばすお客さまの多くは、「難しそうだけど読んでみよう」って考えていると思うんです。そういうお客さまを時間をかけて増やしたいですね。最近はでも、以前より若い方も買ってきてくださっている気がします。学術書の固いイメージからすると近寄ってくれなさそうですが、今の若い人は先入観なく来てくれるようにも思います。

——日々いろいろな情報を集め、頭を悩ませつつ書棚をつくっていく。そのときの情報収集の仕方はいかがでしょうか？

児玉 やっぱりまず著者がだれかは大きいですね。特に地元出身の方、在住の方の本は、それだけでも注目しますが、それがどんな本なのかもしつかり見て扱い方を決めます。それ以外では、著者の有名無名にかかわらず、自店でのニーズを鑑みながら、それこそ装丁などのデザインも含め、その一冊の出版にかけられている思いや価値を汲み取る努力はしているつもりです。

### レイアウトをデザインしつづける

——現状の書棚のスタイルから変えていこう、というお考えは？

児玉 難しいですけど、棚づくりは、これでよしとは全くならなくて、いまもずっと追及している状態ですね。完成した気持ちになったことがない。でも、「町の本屋」としては、現在のようなジャンル分けは必要だと思っています。今だと棚六本の中である程度ジャンル分けをして、お客さまにも店員にもわかりやすい形にやっぱり落ち着いている。以前のことですが、みんな「地球の歴史」としての棚づくりをしてみようというアイデアが出たことがあったんです。棚を年表に見立てて、地球誕生から現在まで、それ

その時代にまつわる書籍をジャンルにとらわれず並べていく。文学も、芸術も、人文系も、理工系も。全部が混在する……その考え自体は面白いと思っただけです。今でも思っています。でも、町の本屋として「便利さ」も追求している以上、本を探すときの現実的な問題がクリアできない……。それに、限られたスペースの中で棚から落とす本と入れる本、取捨選択の根拠を自分自身に示すことがそもそも難しく、結局実現しませんでした。

だからいまのジャンル分けのスタイルはなかなか崩せない。でもこれを壊してみたい、いろいろチャレンジしたいという思いもあって模索をしている途中です。何かやりようがあるんじゃないか……そういう意味では、棚づくりが完成するということはないですね、どこまで行っても。

特集\*「学術書」をデザインする

## 「図書館あるある」から考えるデザインのこと

是住久美子 (田原市図書館館長)

はじめに

先日、愛知大学文学部の「ブックバス・イン・愛大」プロジェクト（古書の移動販売車を愛知大学、豊橋市、田原市の図書館へ誘致し、図書に関する様々な企画も実施）の一環として、「本あるある」エピソードを映像化したのでネタを出してほしいと依頼があり、勤務先の図書館職員らと「図書館あるある」のエピソードを数点提出した。その中にあった「返却されたばかりの本を並べておくコーナーが利用者に人気」という話を元に、同大のメディア芸術専攻の教員や学生が図書館内で撮影し、「本あるある」再現VTRとして映像化した動画が公開された。この話は多くの公共図書館で「図書館あるある」として受け入れられるのではないかと思うほど、公共図書館の利用者は誰かが借りて返した本の置き場をチェックしたがる。棚に並んでいる

膨大な蔵書の中から面白そうな本を自分で選ぶより、つい最近誰かが借りたというお墨付きがある本の中から選んだ方が、本を選ぶ効率が良いと考えるのだろうか。

本稿の依頼を受けた時、筆者の勤務する地方小都市の公共図書館では、学術書を図書館の蔵書として選ぶことがあまりないため執筆をお断りしようかと思ったが、地方小都市の公共図書館の多くの利用者がどのような嗜好であるのか、その行動原理を知っていただくことが、学術出版関係者にとって参考になることがあるかもしれないと考え、先に挙げたような地方小都市の「図書館あるある」エピソードを織り交ぜながら、その実態を紹介したい。

### 都道府県立図書館と市町村立図書館の違い

筆者が勤務する愛知県田原市は人口約六万人で、渥美半島のほぼ全域に位置し、三方を海に囲まれた自然豊かな土

地である。日本トップクラスの農業産出額を誇り、臨海工業地帯の製造業も盛んな地域である。市内に大学はなく、高等教育機関としては、福祉系の専門学校が一枚あるが、大学へ進学する若者は市外へ出る傾向がある。田原市の図書館は中央図書館と二つの分館があり、年間の資料費（雑誌や新聞、視聴覚資料購入費も含む）は二〇〇〇万円ほどで、人口規模で見れば比較的恵まれている。筆者は田原市の職員になる前は、京都府立図書館に勤務していた。二重行政が批判されることもあって、市町村立図書館と都道府県立図書館が収集する資料は役割分担を実施していることが多い。京都府でも、市町村立図書館ではより多くの住民に読まれるような一般的、大衆的な図書を主に収集し、より専門的な図書は府立図書館が収集している。もちろん都道府県立図書館でも大衆向けの図書を収集していたり、市町村立図書館が専門書を収集している場合もあるが、全国的に見てもそのような選書の傾向があると言えるだろう。

京都府立図書館での勤務時代は市町村立図書館の支援担当にいたこともあり、市町村立図書館では購入できない図書のリクエストも受け付けていた。資料費の限られている市町村立図書館では三〇〇〇円以上の図書は高額で購入しにくい図書扱いとなっていた。そこで、府立図書館の蔵書として図書を購入し、市町村立図書館へ貸し出すという支援を行っていた。公共図書館が未設置の自治体には公民館図書室などの読書施設が設置されていることが多いが、そ

のような読書施設の資料費は年間で三〇万円に満たないところもあり、巷の個人の読書家の方がよっぽど資料費を持っているのではないかと思われるような苦しい状況下で図書サービスを行っている自治体も存在する。

筆者が京都府立図書館から田原市図書館へ移籍をして、まず驚いたのが選書する本の違いであった。「見計らい」という毎週書店から運ばれてくる新刊本の中から職員が選書する作業は同じであるが、京都府立図書館時代は選んでいた本を田原市図書館では落とし、京都府立図書館時代でまづ選ばないような本を田原市図書館では選ぶという感じで、頭の切り替えが大変であった。そのくらい都道府県立図書館と市町村立図書館では選ぶ本が変わってくるのである。

市町村立図書館は限られた資料費と限られたスペースで運営しているため、なるべく多くの住民に読まれる本を選び、図書の除籍のサイクルも早い傾向がある。地方自治体の財政状況の悪化で、資料費が削減されていることもあり、すぐには読まれなくても必要とする読者が現れる可能性がある。図書を購入しておくという余裕も少なくなっている。

### 地方小都市の公共図書館あるある

「図書館あるある」に話を戻そう。次の図書館あるあるは「とにかく新刊書が人気」である。新規に受け入れた本が図書館システムに登録され、利用者がウェブから確認できるようになると、すぐにウェブ経由で予約が入る。職員

が業務用に作成したダミーの書誌データ（タイトル「ダミー」）がミスで表示されてしまった時にはその書誌にも予約が付いたことがあった。雑誌の最新号が予約可能になると先を争って予約が何件も入る。予約順位もよく見ていて、自分の予約順位が下がったのではないかと思われることがあるとすぐに問い合わせの連絡が入る。人気作家の新刊本は、刊行前からリクエストカードが何枚も出され、不公平にならないよう、職員がリクエストカードを受け取った日時も管理している。公共図書館がベストセラー本の複本を大量に購入することで本が売れないという無料貸本屋論争もあるうえに、資料費が減っている中で多様なニーズにこたえるために、今ではどの図書館でも多くの複本を購入することはあまりないだろう。その数少ないベストセラー本に予約が殺到し、一年以上待たなければならぬ利用者も発生する。田原市では、書店と協力して、図書館を経由して書店に本を注文できる書店注文制度を実施している。ぜひ地元の本屋で本を買ってもらいたいのだが、残念なが

らベストセラー本の予約待ちの利用者たちにはあまり利用されない。

次の図書館あるあるは「話題になった本が好き」だ。書評で取り上げられたり、テレビやSNSでインフルエンサーに取り上げられたりした本への問い合わせが多い。愛大の「本あるある」再現VTRでは「レファレンスあるある」として、「ほれ、昨日テレビでやってたやつが読みたい」とタイトルも著者名も覚えていない本の問い合わせが来ることが紹介されている。書庫に入っている本に急に予約が複数付いたりすると、「何かメディアで取り上げられたのだろう」と想像がつく。

### 図書が借りられるための工夫

そのような新しいもの好き、流行好きの利用者に、蔵書の魅力を伝え、手に取ってもらえるよう、日々職員は工夫をしている。その一つが図書の展示である。普段は日本十進分類法に従って書棚におさめられている本を、様々なテ

そのような新しいもの好き、流行好きの利用者に、蔵書

## 新刊案内

佐藤公彦著  
A5判 330頁 定価4620円  
**駐米大使胡適の「真珠湾への道」**

その抗日戦争と対米外交  
——胡適は『日米開戦に導いた立役者』だったか。その奮闘と日米開戦の軌跡を解明する。胡適に対する中国と日本の歴史認識の違い、それは何故か、それを明らかにした本。

中谷義和著  
A5判 296頁 定価4180円  
**自由民主政資本主義国家**

本書は「資本主義国家」の社会—経済と政治に関する係論の視点からアプローチすることで、ひとつの「自由民主政資本主義国家」像を設定しようとする試みの書。

御茶の水書房

〒113-0033 文京区本郷5-30-20  
電話03-5684-0751

テーマを切り口としてピックアップして展示すると、それまで動きが無かった本も借りられる。新刊本がすぐに借りられてしまう中で、利用者について来ても代わり映えの無い本棚だと思われず、いつ来ても新鮮な本との出会いがあると感じてもらえるよう、田原市の図書館では数えているものだけで、三館で年間五〇〇件以上のテーマ展示を行っている。展示コーナーは館内に何か所もあり、主題ごとの担当チームが展示場所の予約を行い、計画的に展示をしている。その他、書棚の片隅などに机を置き、ゲリラ的に展示されるものも多い。世の中の動きに敏感な利用者が「今読みた」という時期を逃さない工夫だ。また、著名人の訃報を受けた追悼展示の図書も良く借りられる。一〇月二日現在の館内では、アントニオ猪木氏（一〇月一日死去）、三遊亭圓楽氏（九月三〇日死去）、佐野眞一氏（九月二六日死去）の追悼展示が行われ、展示から一週間ほどで用意した本や落語CDがほぼ全て借りられる。貸出カウンター前の展示スペースは、スーパリーのレジ前の陳列棚と同様に、利用者があと一冊何か借りて帰ろうという気持ちで刺激し、よく借りられるため職員同士の取り合いとなる。単純にサイズの大きい本を集めた展示でも、ここに置いておくとよく借りられるから不思議だ。

## 装丁の重要性

書棚のメンテナンスも重要で、常に魅力的な棚を演出す

るため、棚に並べる本の冊数を減らして本の表紙を見せて展示できるようにしている。準新刊本や話題になっている事を扱った本などは表紙を見せて目立つよう工夫をしている。表紙などの本の装丁は手に取られるためにとっても重要で、本の帯もその重要な要素の一つである。見計らい選書の際は、帯を取らない方が良い本は装備の担当者に帯付きでフィルムコーティングするよう依頼している。また、文字の大きさやフォントの種類、カラーで写真が多く見やすいかなども選定のポイントとなる。類書がある場合は、見やすい、分かりやすいものが選ばれやすい。年配の利用者に好まれる図書は特に文字の大きさが考慮される。また、子どもやティーン世代の利用者は、表紙が魅力的でないと手に取ってもらうことも難しい。全国学校図書館協議会が小中高校生を対象に毎年実施している学校図書館調査では、本を選ぶ基準として「本の題名」の次に「表紙」が選ばれている。読んでみたいと思わせる題名や装丁であることが重要なのである。すでに所蔵している文学作品でも、古い本に使われているフォントや小さい文字で段組みになっているような図書は敬遠されるため、今どきのフォントで魅力的な表紙のものに買い替えることも多い。見た目で学術書は不利にならないを得ないが、最近見計らいに入ってくる学術書では表紙に気を使っていると思われるものも見られるようになってきた。

## 学術書と市民をつなぐ

これまで述べてきたように公共図書館の利用者の嗜好を見ると、学術書と公共図書館の蔵書は縁遠いと思われるかもしれない。確かに地方小都市の公共図書館の現状としては、学術書を選書することは少ないが、リクエスト制度などを利用して、学術書へのアクセスを保証している。少子高齢化、縮小社会を迎え、地域は危機に直面している。公務員の数も減少し、行政の役割も今後は小さくならざるを得なくなってくる。持続可能な地域づくりを実現させるには、行政のみならず、社会全体が公共性を持つ必要がある。市民自ら様々な情報を収集し、多様な人たちと協働しながら地域づくりを進めることが求められる。その時に場所と情報を提供し、学びのコーディネーターとして役割を果たす司書がいる公共図書館の役割はますます大きくなると筆者は考えている。市民に一番身近な公共図書館が学術書と住民をつなぎ、図書館間のネットワークをより強固にして、

市町村立図書館から府県立図書館、大学図書館、国会図書館が持つ資料へと適切につなげることが重要だ。その地域固有の課題については公共図書館自ら、入門書から学術書まで幅広くコレクションしておく必要もあるだろう。また、人生百年時代となり、成人の学び直しやパラレルキャリアなど、人生の様々な場面で学習活動へ参加する市民も増えてくる。学術機関に所属しなくても学ぶことを希望する市民と学術書をつなぐ役割も公共図書館は果たしていくべきである。市民と学術書の間をつなぐデザインを考える時、学術出版版も公共図書館のことを知っていたら、共創によって新しい価値を生み出していく未来を期待したい。

(新刊)

### カンボジアの10年の歩み 1979~1989年

フン・セン著、今川幸雄監修、川口正樹訳  
激動の時代を自ら語る貴重な証言。付・解題(今川)/年表/人物/用語解説/序(石澤良昭) 3300円

### 現代中国における満族

生活・信仰・氏族とその変容  
張琳著 発祥の地・新賓満族自治県の最新の調査から、現代の生活実態や変貌をたどる民族誌。 2750円

### 文献史学と民俗学

地誌・随筆・王権  
村上紀夫著 「書き残された生活記録」を民俗学はどう読むのか。トリセツと実践例による入門書。990円

ブックレット《アジアを学ぼう》

### 中国文明を読む

下田 誠著 国家形成をめぐる協奏。萌芽期の文化・文明からその起源を探る。歴史学者の冒険譚。 880円

### タマダ

八木風輝著 中央ユーラシアの宴を司る芸能者。一つの芸能の誕生とその表現を調べつくす。 880円

### ジープニーに描かれる生

西尾善太著 庶民の足の歴史をひもとき、車体を彩る強烈なグラフィックにオーナー達の夢を辿る。770円

### ズールー語が開く世界

上林朋広著 南アフリカのことばと社会。アハルトヘイトから文学や歴史まで、学習の「手引き」。 880円

### 風響社

〒114-0014 東京都北区田端 4-14-9  
〒 03-3828-9249 (定価は税込)  
URL: <http://www.fukyo.co.jp>

# 大学出版部ニュース

表示価格は税込です。

## 大学出版部協会・活動報告

一〇月一四日(金) 一五時〇〇分～  
第四回 営業部会 開催※

一〇月二八日(金) 一五時三〇分～  
第五回 理事会 開催※

第三八回 日本・韓国大学出版部合同セミナー開催

一一月九日(水)

日韓代表者会議

於…ヴィラフォンテーヌ九段下

歓迎晩餐会(四谷…三是)

一一月一〇日(木) 一三時〇〇分～

日韓合同セミナー

交流懇親会

於…日本出版クラブ

二〇二二年度研修会開催

一十一月一日(金) 一三時〇〇分～

営業部会(研修会) 開催

編集部会(研修会) 開催

全体研修会 一五時〇〇分～

『学術の未来を出版から提案するために』  
京都大学学術出版会 鈴木 哲也氏

於…日本出版クラブ

(※理事会・部会はZOOMでの開催)

## 北海道大学出版会

- ▼講座 サニテーション学(全五巻)  
人のし尿の処理・処分とそのための施設・システムであるサニテーション。人間活動や環境問題と密接に関わるそれらを研究する新たな学問領域として、衛生工学や公衆衛生学のみならず、文化人類学、倫理学、開発経済学など様々な分野を横断する「サニテーション学」を提唱する。【全五巻中、第一巻と第五巻発売中】
- ▼山内太郎・中尾世治・原田英典編著『講座サニテーション学(1)総論 サニテーション学の構築』(A5判・一九八頁・三五二〇円) 歴史的变化と現状をふまえ、その価値、倫理、地域の人々との共創等の観点から、学際的にあるべきサニテーション学を構想する。
- ▼清水貴夫・牛島 健・池見真由・林耕次編著『講座サニテーション学(5) サニテーションのしくみと共創』(A5判・四二二頁・四六二〇円) 技術のみならず、文化的、社会的、経済的に実現可能なサニテーションのしくみづくりと、多様なアクターによる共創の必要性を説く。

## 弘前大学出版会

▼森樹男・熊田憲・高島克史・大倉邦夫・林彦櫻編著『青森からはばたく！じよっぱり起業家群像Ⅱ』（A5判・一七〇頁・一七六〇円）地域で起業し、実績を積んできた5名の起業家の生の声を掲載。答えのない課題を解決するために欠かせない起業家の素養とは何か。事例を通じて具体的に理解することができ、起業家はもとより地域の将来を考える全ての方の手助けになる書。

▼青森県スポーツドクターの会／弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座編集 青森県高等学校野球連盟監修『野球検診手帳』（A5判・五八頁・四九五円）スポーツ医学の専門家が、成長期の野球選手に必要な医学的な情報を多岐に解説。本書は検診の記録簿にもなっており、選手・指導者・医療機関の間で正しい情報のスムーズな共有にも役立つ。

▼平井太郎編著『SDGsを足許から考えかたちにする』（A5判・一九〇頁・一六五〇円）どう受け止めたらよいのかわかりにくい面があるSDGs。異なる学問分野から、現場の人びとと積み重ねた実践を掲載。

## 東北大学出版会

▼東北大学災害科学国際研究所編『東日本大震災からのストーリー―災害を考える51のアプローチ』（B5判・二三四頁・三三〇〇円）東日本大震災から10年の経過を契機とし、最新の知見と研究成果から得られる「災害」への取り組みを四部構成で多角的に論じる。「第1部 東日本大震災によって進化した災害の評価と防災」「第2部 東日本大震災によって進化した人間と社会の科学」「第3部 東日本大震災によって進化した健康の科学」「第4部 東日本大震災によって進化した国内外との連携」

▼新山雄三著『株式会社法の基礎理論―その体系的性質と任務』（A5判・三一六頁・五五〇〇円）株式会社法の所有権法としての体系的性質と、株主保護という法としての任務を理論的に究明しつつ、株式会社内部組織における監査役（会）制度を私的自治の株式会社法的変容としての「株主によるガバナンス」に必須不可欠の機関として位置づける。コーポレート・ガバナンスの意義と働きを解明し、資本の論理と人間の論理の両者のあるべき調整の在り方を指し示す。

## 流通経済大学出版会

▼永岡悦子著『大学大衆化時代における日本語教育の役割と可能性』（四六判・三七八頁・二九七〇円）大学大衆化が進む中で、外国人留学生の受け入れはどうあるべきか。日本の留学生政策を検証する。



▼林克彦著

『現代物流産業論―ロジスティクス・プラットフォーム革新』（四六判・三〇八頁・二五三〇円）労働力不足の深刻化にコロナ禍が重なり、厳しい状況に置かれている現代の物流産業。その危機を打破するためには何が重要か。物流企業の動向を詳説し、構造変化を分析した一冊。



## 聖徳大学出版会

▼聖徳大学児童学部児童学科編『新しい児童学への招待』（B5判・一〇三頁・一三五九円）

幼児教育・保育・文化・心理の教授陣四〇名が協働制作した入門書。薄手の冊子に児童学の様々な素材が凝縮されており学びやすい。

▼塩美佐枝・古川寿子・重安智子・井口厚子・関口明子著『教職実践演習―幼稚園教諭・保育士・保育教諭を目指すために』（B5判・一四〇頁・一七六〇円）

幼児教育に携わるために学んできた総まとめとして、いじめ、食育、特別支援教育や、幼・小連携、家庭や地域との連携の大切さを具体例を挙げて説明。総合的な実践的指導力の基礎を修得できる一冊。

▼聖徳大学特別支援教育研究室編『一人ひとりのニーズに応える保育と教育―みんなで進める特別支援改訂2版』（A5判・二四九頁・一七六〇円）

初学者のための特別支援教育本。コンパクトなハンディサイズに、全障害について、子どもの理解と指導・支援に必要な基礎的知識を盛り込んだ一冊。

## 慶應義塾大学出版会

▼中森弘樹著『死にたい』とつぶやく―座間9人殺害事件と親密圏の社会学』（四六判・三二八頁・一九八〇円）事件はなぜ起きたのか。「死にたい」とつぶやいた者たちは、本当に死を望んでいたのか。なぜ、家族ではなく、その外部に救いを求めたのか。SNSに溢れかえる「死にたい」の声に、私たちはどう向き合うべきか。気鋭の社会学者による快著。

▼モリス・バーマン著／込山宏太訳『神経症的な美しさ―アウトサイダーがみた日本』（A5判・四二四頁・四一八〇円）

異端の思想家バーマンが、アメリカによる近代化を強いられた日本の近代以降の苦悩と功罪を辿りながらポスト資本主義モデルとして「日本的なるもの」の可能性を追究した大著。

▼青井哲人著『ヨコとタテの建築論―モダン・ヒューマンとしての私たちと建築をめぐる一〇講』（四六判・二九六頁・二九七〇円）建築家は家屋の海原の中に

聖堂をつくる（本文より）。建築の成り立ちを人類史的スケールで捉え返す出色の入門書。広範なりファレンスと巧みな比喩で織り上げる思考のタペストリー。

## 専修大学出版局

▼中野毅・平良直・粟津賢太・井上大介編著『占領改革と宗教―連合国の対アジア政策と複数の戦後世界』（A5判・六九〇頁・六六〇〇円）八月十五日を起点とする公式の戦後宗教史ではなく、米国のみならず、イギリス、ソ連、オーストラリアを含めた連合国の宗教政策を問い直し、沖縄・南西諸島、旧植民地を視野に入れた複数の戦後世界を展望する。



▼西方守著『私の教育哲学―コロナ禍の講義録』（四六判・二三六頁・二八六〇円）教育をとりまく社会・政治との関係、指導や評価といった学校教育そのものの考察、古今の哲学者の思想などを通して、著者の教育哲学を明らかにする。

▼Doreen Simmons, Hiromi Nema著『Japanese Sumo: Q & A』（A5判・二七二頁・二九七〇円）大相撲を深く知りたい外国人向けの解説書。相撲のことならなんでも分かるようにQ&A形式で構成（本文は英文）。

## 玉川大学出版部

▼中井俊樹編著 上月翔太・橋本規孝著『カリキュラムの編成』(A5判・一九〇頁・二二〇〇円) 大学教育の質保証を推進する教職員として必要な知識を提供するシリーズの第一弾。大学が主体的にカリキュラムを編成するための実践的な方法を体系的に解説する。基本的知識に加え、さまざまな編成方法の選択肢を提示。質保証だけでなくカリキュラムの特色を打ち出していく面も重視し、さらに組織内での進め方についても取り上げる。

▼斎藤清明著『今西錦司と自然』(A5判・一七六頁・二七五〇円) その人物のことをよく知る作家が、本人になりかわり、自分の生涯を語るといふ、一人称の伝記シリーズ、「日本の伝記 知のパイオニア」の好評第六弾。今西錦司は、明治時代の京都に生まれ、平成にかけて活躍した生態学者で、登山家、探検家、そして日本の霊長類学のパイオニアである。自然が好きで、生物の生態、種、社会に興味をもち、多くの業績を残した。「すみわけ」を発見し「自然学」を唱えた今西が、自然とは何かを追究しつづけた生涯を、自ら語る。

## 中央大学出版部

▼山内惟介著『憲法と国際私法』(A5判・七九二頁・一〇四五〇円) 国会が外国法に国内法源性を付与できるとする憲法上の根拠は何か。憲法規範の解釈論は国際私法の伝統的な理解を見直す契機を与える。婚姻の成立を主張するシリア難民の児童婚夫婦に対して人権規定はどのように適用されるか。外国法文化をどのように受け止めるか、課題を提起する。

▼飯島大邦編著『人口と公共政策』(A5判・七九二頁・六三八〇円) 人口変化が、経済政策全般および人々の政治意識にもたらす影響を踏まえた上で、子育てなどの社会福祉、財政、まちづくりや都市圏での人口移動、技術、労働など、さまざまな問題点を指摘し、その是正のための政策提言を試みる。

▼平野晋著『アメリカ不法行為法』(A5判・五一二頁・五一四五円) 日本「初」の本格的体系書。主要概念の概説から製造物責任(PL)法に関する詳細な分析まで網羅。アメリカ民事訴訟法/証拠法の基本概念・用語も解説。「法と経済学」「倫理哲学」「法と行動科学/認知心理学」から不法行為法への影響を探る。

## 東京大学出版会

▼ルイージ・フォンタナ著/寺田新訳『科学的エビデンスにもとづく 100歳まで健康に生きるための25のメソッド』(A5判・四五六頁・三五〇〇円) 老いを遅らせることは可能である。「運動」「栄養・食事」「認知トレーニング」といった広範囲にわたる具体的方法を、科学的根拠を含めて詳細に解説する。

▼東京大学教養学部英語部会編『東大英語リーディング 多元化する世界を英語で読む』(菊判・二〇〇頁・一九〇〇円) いまを生きる大学生に触れてほしいテーマと英語の質にこだわった、東京大学教養学部の必修リーディング教科書。

▼中村元哉・森川裕真・関智英・家永真幸著『概説 中華圏の戦後史』(A5判・二七六頁・二七〇〇円) 中国大陸、香港、マカオ、台湾という地域の第二次世界大戦終結後約八〇年の歴史を理解する。

▼砂原庸介著『領域を超えない民主主義—地方政治における競争と民意』(四六判・二四八頁・三二〇〇円) 地方政府は広がる都市の問題を解決か。住民投票は地方の究極の民主主義か。構造的問題を抉り出し、解決の糸口まで示唆。

## 東京電機大学出版局

- ▼腰塚正著『ATP-EMTPによる開閉現象過渡解析』（A5判・四五八頁・八八〇〇円）電力系統で用いられる遮断器、断路器の開閉に伴う過渡現象を扱う。電力系統分野で最も利用されているフリーソフト「ATP-EMTP」を用いた解析に主眼をおいて解説。「理論」「解析」「計測」について網羅的にまとめた。研究者はもちろん、電力会社、鉄道会社、電機メーカーなどの技術者の活用が期待できる。
- ▼実践教育訓練学会監修／水野修次郎・新日真紀著『コミュニケーションテラーの教科書』（B5判・一六〇頁・二四二〇円）対人トラブルに際してコミュニケーションによって合意形成ができるスキルの育成を目的として解説。対人トラブルに対処するために必要なスキルを、認知面、言語面、非言語面から整理し、実際の対人トラブル事例分析やロールプレイ、グループワークを通じて、トラブルを軽減し合意を形成する能力を育成する。エクササイズを介して自身のコミュニケーションスキルを洞察できる別冊ワークシートと教材の解説動画も用意。

## 法政大学出版局

- ▼岩野卓司・丸川哲史編『野生の教養―飼いならされず、学び続ける』（四六判・三七八頁・三〇八〇円）いまこそ野生の思考を復権せよ。明治大学大学院教養デザイン研究科の多士済々の教員が問いかける、刺激的な教養入門の書。
- ▼P・B・プレシアド著 藤本一勇訳『あなたがたに話す私はモンスター―精神分析アカデミーへの報告』（B6変・一四二頁・一六五〇円）二〇一九年、三五〇〇人の精神分析家の聴衆に激震をもたらした講演。性的少数派を異常者として扱ってきた旧来の知を根底的に批判。
- ▼江橋崇著『百人一首』（四六判・三六六頁・三八五〇円）江戸時代初めに登場し、いまなお遊び継がれるかるたの歴史。著者自身が蒐集した型式、歌人画から書体までを徹底調査し、数々の謎に迫る。
- ▼J・ロゴザンスキー著 松葉祥一編訳・本間義啓訳『政治的身体とその（残りもの）』（四六判・三〇〇頁・四一八〇円）憎悪や排除を生む基盤に抵抗する政治論。デリダと民主主義、メルローポンティと肉の共同体。今日のエビデミックの経験など、ラディカルに議論を展開。

## 武蔵野大学出版会

- ▼欒殿武・柴田幹夫編著『日華学堂とその時代―中国人留学生研究の新しい地平』（A5判・五五二頁・四六二〇円）日華学堂に関する日誌を基にして、清末の留日学生史の一端を解説。日華学堂の学生たちを通じて、留学生派遣の背景、学堂の教育と経営、学生たちの生活、留学中の勉強と活躍、帰国後の活動などを紹介したほか、高楠順次郎を始めとする教員たちの献身的な教育活動を、豊富な資料と共に明らかにしている。



- ▼ケネス・タナカ著『目覚めるアメリカ仏教―現代仏教の新しい未来像』（四六判・二七二頁・二五三〇円）現在、欧米では仏教が伸長し続けている。仏教は西洋の壁を超え、「東洋」に限るものではなくなった。アメリカ仏教の歴史や現状、特色と背景、代表的な人物や組織などから、その意義や影響力を解説する。

## 武蔵野美術大学出版局

▼小幡正敏著『見知らぬ者への贈与 贈与とセキリティの社会学』（A5判・三二〇頁・三二〇〇円）市場の論理や効率が当然のこととして語られる私たちの社会は「格差社会」という行き詰まりを露呈した。新自由主義の強引な統治に対して途方に暮れるのではなく、「贈与と交換」という視点で社会的連帯を再構築することは可能か——。贈与の意味を多角的に探り、同時に、具体的な社会システムや事象を参照し、現代社会に生き続ける贈与行為にどのような可能性があるのかを繰り返し検証する。

▼小林のりお著『Cluster of Dreams』（B4判変型・一一二頁・四四〇〇円）農村の名残を留める多摩丘陵が更地になるまでの区画整理を定点観測的に記録した代表作はじめ、著者はランドスケープに深く関わりのある写真家として知られている。その手法は、風景に対して水平垂直にレンズを向ける「ごく普通」の撮り方だ。その小林が還暦を過ぎたあたりから、雪の有りように心惹かれるようになった。そこには都市と同じく、解体であり再生である「雪」が描写されている。

## 明星大学出版部

▼須藤康介著『教育問題の「常識」を問い直す—いじめ・不登校から家族・学歴まで（第2版）』（四六判・二七〇頁・一九八〇円）本書は、様々な理論やデータを紹介し、世間一般で語られている教育問題のどれが本場で、どれが誤解なのかを検討して行く。そして、本当だとしたらその解決方法、誤解だとしたら誤解が生じている理由を考える。



▼樋口修資著『教職志望者のための教育法の基礎』（A5・四九八頁・三二二〇円）本書は最新の教育法令の改正動向等を踏まえて、二〇一五年初出の『最新の教育法の基礎』を大幅改定し、教員及び教員志願者が理解しておくべき最新の教育法規の基礎的・基本的知識を全十六章にわたってまとめたもの。

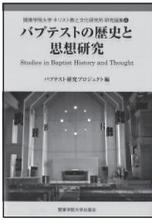
## 早稲田大学出版部

▼神田恵美子著『すべての学びは「聞くこと」から—社会生活に必要な音声言語能力指導』（A5判・三一六頁・四四〇〇円）日常生活や学校生活において、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のうち最も頻度が高く基礎となるのは「聞くこと」であり、社会に出た後も「聞く力」が試される。高校教師だった筆者が、発達段階ごとに「聞くこと」の能力を育成する授業と評価方法を開発。国語以外での教科や、社会人研修での取り組みの可能性も考察する。

▼上田貴子著『貧困と格差のミクロ・データ分析—貧困のリスク要因、犯罪、新型コロナウイルスの影響』（A5判・三四六頁・五五〇〇円）日本の貧困や所得格差の現状について、政府統計調査などのミクロ・データ（個票データ）をもとに実証的に分析。これまで主な分析対象とされてきた政府統計調査の集計データだけでは導き出されてこなかった、リスク要因の関連性が明らかとなる。貧困による影響のひとつである犯罪との関連、新型コロナウイルス感染症拡大の影響についても分析する。

## 関東学院大学出版会

▼パプテスト研究プロジェクト編『パプテストの歴史と思想研究⑥』(A5判・二二二頁・一八七〇円) 関東学院大学が発表するパプテスト研究論文集の最新号。第一章は19世紀に活躍したイギリスのパプテスト神学者スボルジョンの教会形成論を詳述する。第二章は日本におけるパプテストの指導者となる熊野清樹における活動初期の足跡を辿りつつ、背後にあるパプテスト西部組合の様相を浮かび上がらせる。第三章は「SCM東山荘夏期学校事件」について詳細な一次資料を用いつつ紹介する。第四章はイギリスにおけるパプテスト黎明期の教会について幅広く概観する。(目次) 第1章 C. H. スボルジョンの教会形成とその神学/第2章 熊野清樹を通して見る日本のパプテスト(3) / 第3章 SCM東山荘夏期学校事件と関東学院 / 第4章 パプテスト教会黎明期の教会形成・教会論



## 名古屋大学出版会

▼月澤美代子著『ツベルクリン騒動―明治日本の医と情報』(A5判・五〇四頁・六九三〇円) フィーバーからスキャンダルへと化したコッホの「結核新治療薬」。日本社会はそれをどのように受け止めたのか。情報の伝達・普及・切り分けを軸に、転換期の医学・医療の実相を描き、今日への示唆に富む力作。

▼森田勝昭著『クジラ捕りが津波に遭ったとき―生業の人類学』(四六判・三七六頁・三五二〇円) 鯨びと、鯨の町、鯨の海―。歴戦の解剖リーダーや老いたる船の若き船長、多くの人生を背負う社長らの声を聴き、逆境のなか、捕鯨とは何かを見つめ直す。「生きてあること」のタスクスケープ。

▼中澤克昭著『狩猟と権力―日本中世における野生の価値』(A5判・四八四頁・七四八〇円) 日本の歴史において、狩猟はつねに権力と結びついていた。なぜ野生のキャプチャーが大きな政治性を帯びたのか。天皇・公家や武士たちが実践した鷹狩・巻狩などを通観し、広範な狩猟文化を探究する中から、列島の人間と動物の関係を問い直す。

## 名古屋外国語大学出版会

▼亀山郁夫、エリス俊子編『世界文学の小宇宙3詩集「愛、もしくは別れの夜に」』(四六判・定価未定) 混沌の現在に贈る世界の傑作詩。さまざまな言語で紡がれた(刺さる)コトバを一冊に。英語圏(フロスト、ブロンテ他)、フランス(シェニエ)、スペイン語圏(ロルカ、ミストラル他)、ドイツ(ハイネ、シュヴァイツター他)、中国(古典「紅樓夢」他)、ロシア(マヤコフスキー他)、ブラジル(アルヴェス)、イディッシュ語(アン・スキ)、ラテン語(アルキポエタ)、アラビア語圏(ライラ他)、……日本(式内親王、萩原朔太郎)。(二〇二三年三月刊行予定)



▼梅垣昌子著『フォークナーの語り力―……詩人、作家、脚本家として』(仮題、四六判・定価未定) フォークナー研究の第一人者がまとめた壮大精密な論考。知られざる短編から見える、巨大な作家の全体像と読解の方法。(三月末予定)

## 京都大学学術出版会

- ▼小浜正子・落合恵美子編『東アジアは「儒教社会」か?—アジア家族の変容—』(A5判・三八六頁・三三〇〇円)「儒教資本主義」「儒教主義的福祉国家」など、いま「儒教」が注目されている。地域ごとに様々なかたちで構築と脱構築を繰り返した東アジアの「儒教」の歴史に迫り、私たちの家族の未来を展望する。
- ▼松田素二、フランシス・ニヤムンジョ、太田至編著『アフリカ潜在力が世界を変える—オルタナティブな地球社会のため—』(A5判・四六二頁・四八四〇円)自らの不完全性を認め他者を抱り所にする社会認識、徹底した交渉—人類誕生以来培われた人々の共生を実現するための知恵や仕組みを現代世界に活かす。
- ▼京都大学フィールド科学教育研究センター・瀬戸臨海実験所創立100周年記念出版編集委員会編『海産無脊椎動物多様性学—100年の歴史とフロンティア—』(菊判・七〇六頁・二九七〇〇円)地球上の海洋生物の種類の70%以上を占める海産無脊椎動物。その自然史学の最前線を、系統分類、生態、行動、環境・保全研究を中心に紹介する。

## 大阪大学出版会

- ▼上田直弥著『古墳時代の葬制秩序と政治権力—(B5判・三七六頁・七九二〇円) 全国にある古墳時代前半期の竪穴式石室や粘土椀などの埋葬施設を分析し、共通性・地域性を抽出。有力階層がどのような政治ネットワークを形成していたのかを復元する。古墳時代がもつ歴史的意义を考察するための重要な成果。』
- ▼林真貴子著『大阪大学法史学研究叢書 4 近代日本における勸解・調停 紛争解決手続の歴史と機能—』(A5判・三九二頁・七〇四〇円) 勸解、調停制度が果たした具体的な機能・歴史的作用を明らかにする。司法統計を用いた量的分析、紛争解決の実態を考察する。
- ▼檜垣立哉編『シリーズ人間科学 8 住む・棲む—』(四六判・二二〇頁・二二〇〇円) 建物に「住む」ことと、場所・人間関係・環境において「棲む」ことの交点を掘り下げる。住居・建築からネット空間での居場所、移民や環境問題からも住むこと・棲むことに切り込み、その二重性を考える。

## 関西大学出版部

- ▼岩崎千晶編著『大学生の学びを育むオンライン授業のデザイン—リスク社会に挑戦する大学教育の実践—』(A5判・二六〇頁・二五三〇円) 高等教育におけるオンライン授業を設計するための入門書。講義、実験、実習、外国語を「リアルタイム・オンライン授業」でどう実施しているのか。理論と実践の往還を目指した一冊。
- ▼尾島史賢著『法的思考のススメ—大人になる君に知ってもらいたいこと—』(A5判・一四二頁・一一〇〇円)「民法の一部を改正する法律」が二〇二二年四月から施行された。一八歳で「大人」になる君に知ってもらいたいこと。トラブルが生じがちな事柄について、現役弁護士が法的思考を基にわかりやすく解説。日常生活、消費者、恋愛、お酒、交通事故、薬物など、様々な分野を読み解く。



## 関西学院大学出版会

▼細海真二・ロブ・ジョン著／石原俊彦監修『迷走するグローバル資本主義のゆくえ―博愛資本主義という考え方』(A5判・192頁・三三〇〇円)フィランソロピーとキャピタリズムの合成語であるフィランソロキャピタリズム(博愛資本主義)を、概念フレームワークに基づいて実例を盛り込み解説。



▼澤谷敏行著『現代中国高等教育の躍進―急速な大学発展の要因』(A5判・三四〇頁・三九六〇円)中国の急速な高等教育躍進の要因は後発優位の立場から戦略的な政策が実施され、様々な発展フレームワークが構築された結果であった。



## 九州大学出版会

▼三阪一徳『土器製作技術からみた稲作受容期の東北アジア』(B5判・二九四頁・八八〇〇円)土器の製作痕跡から、農業技術の伝播過程と文化変化の実態を解明することで、東北アジア全体の歴史像に新たな枠組みを提示する。

▼長濱和代『ヒマラヤの森はなぜ守られたのか―インド・ウッタラーカンド州における森林パンドチャヤーットの資源管理』(A5判・二二六ページ・二九七〇円)ヒマラヤ山脈の農山村で実践されている住民自治組織による参加型森林管理。

▼大森万理子『「保護」と「分類」の教育社会史―アメリカ日本人移民の児童保護政策と中間団体』(A5判・二七四頁・四六二〇円)二〇世紀前半のカリフォルニア州の「人種」別児童保護政策下における日本人児童を巡る言説と実態を探る。

▼園井ゆり・浅利宙・倉重加代編『家族社会学 第四版「基礎と応用」』(A5判・二二四頁・二二〇〇円)基礎編で家族の基礎概念を平明に解説したうえで、応用編ではライフステージに即して、現代の家族が抱える問題を分析・検証する。

## 編集後記

▼「学術書にデザインなんか関係ないでしょ？」というのは読者からも著者からもたまに耳にする。もちろん作り手側からするとそんなわけはなく、それぞれにふさわしいデザインはどのようなものか日々悩んでいる。むしろ書籍の売れ行きが厳しい昨今、その重要性を噛みしめることも増えた。地味、お堅い、無味乾燥、飾りのない茶色の函……その選択もひとつのデザイン。「学術書」という枠でデザインをどう考えることができるか、デザイナー、編集者から寄稿を得た。

▼デザインは造本のみに限るものではない。読者が本と出会う場である「書棚」でも大きな要素だ。老舗書店員、図書館職員からお話を伺うことで、製作からアウトリーチまで、デザインにはまだまだ可能性があることを痛感した次第。

▼一方で阿部卓也氏の論者にあるが、電子書籍その他、デジタル展開のデザインはまた別もの。モノとしての書籍とは違う考え方が求められる。パラダイム転換はそう簡単にはいかないが、デジタル化の中でデザインは「手触り」や「重さ」と同じくらい重要になったように感じる。

- 大同印刷(株) 〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20  
TEL 0952-71-8550 <https://www.daidou-jp.com>
- ダイニック(株) 〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル  
TEL 03-5402-1811 <https://www.dynic.co.jp>
- (株) 太平印刷社 〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16  
TEL 03-3474-2821 <http://www.p-taihei.co.jp>
- (株) 太洋社 〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1  
TEL 058-324-2111 <https://www.p-taiyosha.co.jp>
- (株) 竹尾 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6  
TEL 03-3292-3617 <https://www.takeo.co.jp>
- (株) 東京弘報社 〒101-0051 東京都千代田区猿楽町1-2-1  
TEL 03-3291-1771
- (株) とうこう・あい 〒104-0061 東京都中央区銀座7-13-12 サクセス銀座7ビル4F  
TEL 03-5148-7200 <https://www.toko-ai.com>
- 東光整版印刷(株) 〒135-0006 東京都江東区常磐2-12-15  
TEL 03-3632-0801
- (株) トーヨー企画 〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中立売上ル 油橋詰町93-7  
TEL 075-411-8288 <https://www.talligent.jp>
- 図書印刷(株) 〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36  
TEL 03-5843-9700 <https://www.tosho.co.jp>
- (株) 日新広告社 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-12-10 喜久屋ビル3F  
TEL 03-3263-9431 <http://www.nissinkoukokusyua.com>
- (株) 日本経済新聞社 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
TEL 03-6256-7528 <https://www.nikkei.co.jp>
- 日本宣伝販売(株) 〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋3-278  
TEL 048-620-1021 <http://www.nihon-senden.jp>
- (株) 博報堂 〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F  
TEL 03-6441-6711 <https://www.hakuhodo.co.jp>
- 藤原印刷(株) 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5  
TEL 03-3291-0191 <https://www.fujiwara-i.com>
- (株) 平文社 〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7  
TEL 03-3944-0301 <http://www.heibun.co.jp>
- (株) 毎日新聞社 〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1  
TEL 03-3212-3340 <https://www.mainichi.co.jp>
- 誠製本(株) 〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5  
TEL 03-3967-3952 <http://www.makoto-seihon.com>
- 名鉄局印刷(株) 〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-13-23  
TEL 052-561-3272 <http://www.meitetsukyoku.co.jp>
- (株) 遊文舎 〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31  
TEL 06-6304-9325 <http://www.yubun.co.jp>
- (株) 読売新聞東京本社 〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1  
TEL 03-3242-1111 <https://www.yomiuri.co.jp>

## 一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

---

- (株)朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2  
TEL 03-5540-7749 <https://www.asahi.com>
- 亜細亜印刷(株) 〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154  
TEL 026-243-4858 <http://www.asia-p.co.jp>
- (株)アベル社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-2-2 東京三和ビル301  
TEL 03-6256-8133 <https://www.abel-sha.com>
- 尼崎印刷(株) 〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20  
TEL 06-6494-1122 <http://www.amain.co.jp>
- 英文校正エナゴ 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10 第2電波ビル4F クリムゾンインタラクティブジャパン  
<https://www.enago.jp/>
- (株)ALE 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階  
TEL 03-5652-8627 <http://www.adv-logi-eng.co.jp>
- 王子製紙(株) 〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5  
TEL 03-3563-7072 <https://www.ojipaper.co.jp>
- (株)加藤文明社印刷所 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-15-6 K-STAGE  
TEL 03-3261-8281 <http://www.bunmeisha.co.jp>
- 城島印刷(株) 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6  
TEL 092-531-7102 <https://www.kijima-p.co.jp>
- (株)条川印刷 〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7  
TEL 03-3943-9811 <http://www.kumekawa.jp>
- 港北メディアサービス(株) 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7  
TEL 03-5466-2201 <http://www.kohoku.co.jp>
- (株)コングレゴロ・パブリケーションズ 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-10-5 オンワードパークビルディング5階  
TEL 03-3510-3750 <https://www.congre-gc.co.jp>
- 三松堂(株) 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館14階  
TEL 03-6823-5360 <https://www.sanshodo.co.jp>
- 三美印刷(株) 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8  
TEL 03-3803-3131 <https://www.sanbi.co.jp>
- 三立工芸(株) 〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F  
TEL 03-3261-5171 <https://www.sanritsu-net.co.jp>
- 三和印刷(株) 〒381-2226 長野県長野市川中島町今井1822-1  
TEL 026-285-2300 <http://www.sanwaprinting.jp>
- 信濃印刷(株) 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-1-11  
TEL 03-3237-3601 <http://www.shinano-insatsu.co.jp>
- (株)渋谷文泉閣 〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7  
TEL 026-244-7185 <http://www.bunsenkaku.co.jp>
- (株)眞興社 〒150-0033 東京都渋谷区猿樂町19-2  
TEL 03-3462-1181 <https://www.shinkousha.co.jp>
- 新日本印刷(株) 〒162-0801 東京都新宿区山吹町342  
TEL 03-3269-3611 <https://www.sinnihon.net>
- (株)精興社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9  
TEL 03-3293-3021 <https://www.seikosha-p.co.jp>
- 創栄図書印刷(株) 〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766  
TEL 075-255-2288 <https://www.soiei-pb.co.jp>
-

# 道徳形而上学の基礎づけ

イマヌエル・カント 著 御子柴善之 訳

四六判上製 250 頁 定価 3,300 円 ISBN:978-4-409-03118-6

倫理学の最重要書にして、カントによるカント入門。最新の研究を織り込み、未来の読解へと開かれた訳語を採用した、精緻な新訳がここに誕生。丁寧な訳注、詳細な索引を付す。



# 環大西洋政治詩学

—二〇世紀ブラック・カルチャーの水脈

中村隆之 著

四六判上製 490 頁 定価 5,500 円 ISBN:978-4-409-04123-9

アフリカからアメリカスへ、カリブ海からヨーロッパへ——解放へと開かれた情景とは。環大西洋思想のうねりを〈発見〉し続けるための壮大な文学論。



# ポストコロニアル研究の遺産

—翻訳不可能なものを翻訳する

磯前順一/タラル・アサド/酒井直樹/プラダン・ゴウランガ・チャラン 編

A5判上製 350 頁 定価 7,480 円 ISBN:978-4-409-04122-2

ポストコロニアル研究は何を残したか、世界的思想家たちによる一大総括。日文研主催の国際会議の成果。



# 戦争と平和 ある観察 [増補新装版]

中井久夫 著 対談＝加藤陽子/島田誠 (元海文堂書店社長) /海老坂武

四六判並製 278 頁 定価 2,530 円 ISBN:978-4-409-34062-2

精神科医としてだけではなく文筆家としても著名な著者が、あの戦争についてどう考えどう過ごしてきたかを語る。NHK-E テレ「100 分 de 名著 中井久夫スペシャル」で紹介



<b>重版出来!</b> じぶんでいいから、 重版出来!	<b>鶴見俊輔の言葉と倫理</b> 想像力、大衆文化、プラグマティズム 谷川嘉浩 著 ¥4,950	<b>葛藤する形態</b> —第一次世界大戦と美術 河本真理著 ¥1,650	<b>弱者に仕掛けた戦争</b> —アメリカ優生学運動の歴史 エドウィン・ブラック著 貴堂嘉之監訳 西川美樹訳 ¥8,800	<b>後期ラカン入門</b> —ラカンの主体について ブルース・フィンク著 村上靖彦監訳 小倉拓也/塩飽耕規/渋谷亮訳 ¥4,950	<b>スマート・イナフ・シティ</b> —テクノロジーは都市の未来を取り戻すために ベン・グリーン著 中村健太郎/酒井康史訳 ¥3,080
------------------------------------	--	---	--	---	--

◎北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目  
北海道大学構内  
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

◎弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地  
弘前大学附属図書館内  
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

◎東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1  
東北大学構内  
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

◎流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市中平畑120  
TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

◎聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550  
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

◎慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30  
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

◎専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-10-3  
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

◎玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1  
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

◎中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1  
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

◎東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29  
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

◎東京電機大学出版局

〒120-8551 足立区千住旭町5番  
TEL 03-5284-5385 FAX 03-5284-5387

◎法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3  
法政大学九段校舎内  
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

◎武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20  
武蔵野大学構内  
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

◎武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7  
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

◎明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1  
TEL 042-591-9979 FAX 042-591-9254

◎早稲田大学出版部

〒169-0051 新宿区西早稲田1-9-12  
TEL 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406

◎関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1  
TEL 045-786-5906 FAX 045-785-9572

◎名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市千種区不老町1  
名古屋大学構内  
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

◎名古屋外国語大学出版会

〒470-0197 日進市岩崎町竹ノ山57  
名古屋外国語大学内  
TEL 0561-75-2503 FAX 0561-75-1723

◎京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69  
京都大学吉田南構内  
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

◎大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7  
大阪大学ウエストフロント  
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

◎関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35  
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

◎関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155  
TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-5870

◎九州大学出版会

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-8-34  
九州大学産学官連携イノベーションプラザ305  
TEL 092-833-9150 FAX 092-833-9160

◎大阪経済法科大学出版部(休会)

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10  
TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979

【発行所】

一般社団法人 大学出版部協会  
ISSN 0913-3305  
振替 00170-8-389131

〒102-0073  
東京都千代田区九段北1丁目14番13号  
メゾン萬六403号室  
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092  
E-mail : mail@ajup-net.com  
URL : <https://www.ajup-net.com/>

【表紙デザイン】 奥定泰之

【表紙写真】

これから生まれるための  
photo : sogane/shutterstock.com



\*本誌のバックナンバーは、大学出版部協会の公式HPでも、PDF版を全文無料でダウンロードできます

大学出版 133号 (2023年冬)

2023年2月1日発行

頒価 100円 (千共)